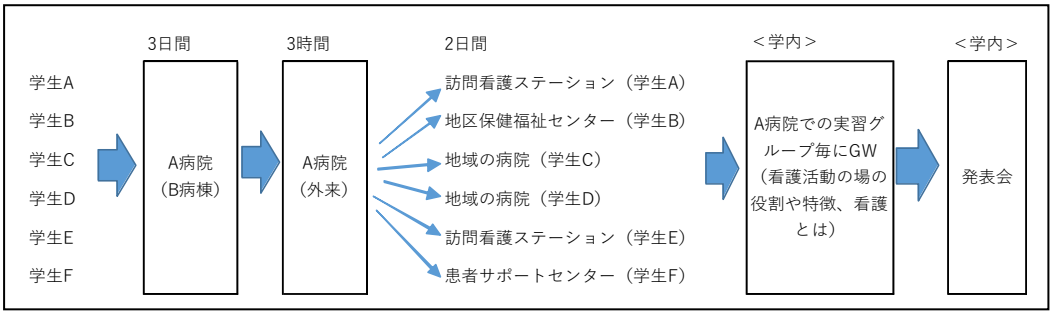
テーマ「基礎看護学実習Ⅰ～地域の様々な場での看護活動から看護を考える～」
応募カテゴリー：②教育内容（実習）、学校概要：いわき市医療センター看護専門学校
　福島県いわき市内郷御厩町３丁目 91 番地の 1、課程名：3 年課程、1 学年定員：40 名　就業年限：3 年

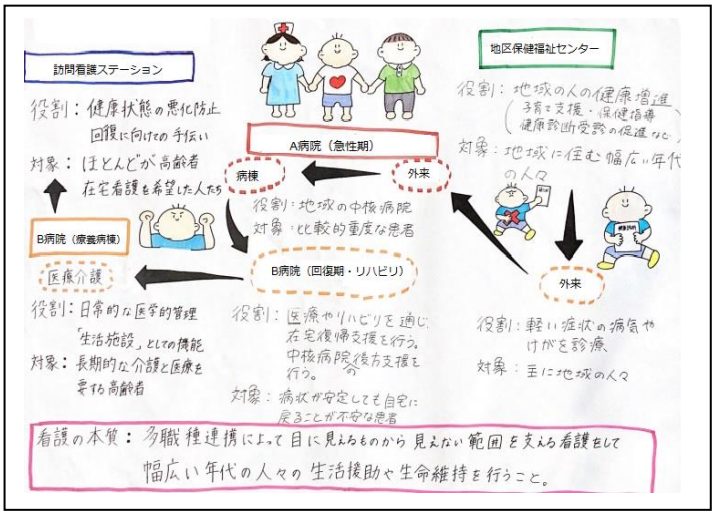
内容

　基礎看護学実習Ⅰ（看護の役割と機能）：初めて看護に触れる基礎看護学Ⅰ実習を地域の様々な場の看護活動の見学から看護の役割を見いだす事ができる実習としている。
単位数：1 年次　1 単位　45 時間　　実習時期：6 月下旬～7 月初旬
目的：看護の基本となる概念を踏まえて、看護の役割と機能を理解する。
実習場所・方法：A 病院（急性期）での病棟実習（3 日）と外来実習（3 時間）は全学生、地域での実習（2 日）は地域の亜急性期・回復期・リハビリ病棟を有している病院（24 名）、訪問看護ステーション（8 名）、地区保健福祉センター（6 名）、A 病院の患者サポートセンター(2 名)に分かれて見学実習を行う。
実習内容：①看護活動の場・利用者の特徴・看護師の役割についてオリエンテーションを受ける。
　　②看護師とともに行動し、行われている看護を見学する。
　　③実習終了後、学内でまとめ学習をする。A 病院以外の実習は全員が同じ経験をするわけではないため、学んだことをグループで共有し、その後クラス全体で発表会を行う。



～学生の実習記録や発表から～　＊学生に同意を得て掲載（一部抜粋）

・利用者は生活者だった。その人の暮らしと暮らしを支える家族に密接に関わっていくのが訪問看護だった。自宅に訪問するので利用者は自身のテリトリーに入られることに抵抗を覚える方もいる。そのことを理解し、訪問マナーを徹底することや、誠心誠意取り組む大切さを学んだ。
・患者さんの特徴に合わせて、長期的な医療と介護を必要とする高齢者を対象に生活施設として機能を持つ介護医療院、地域包括ケア病棟、療養病棟等各々の病院で様々な病棟があった。どちらでも、患者さんの生活を意識した看護が行われていた。患者さんが季節を感じたり、楽しくなるような工夫がされていた。
・リモート実態調査の見学があった。患者さんがこれからどのような生活をしたいと思っているのか、早く生活になじむためにはどうすればよいのかなど話し合っている姿を見て、患者さんを第一に考え、その人がその人らしく生きていけるように思う気持ちは場や職種が違っても一緒なのだと感じた。助け合うことで看護が成り立っていることが分かった。
・地域に住む全ての方を対象に支援が行われており、すべての人が安全・安心に暮らせるように「暮らしをまもる看護」をするのが役割だと学んだ。地域での支援と病院での支援は繋がっていた。
・看護活動の場が違っても看護の本質は同じであることに気が付いた。対象の日々の暮らしや退院後の暮らしがその人らしく過ごせるように、できないことはできるように、できることは更にできるように、そして、できていたことができなくならないように援助する。患者に一番近い看護師はこれらを果たす役割と責任がある。
・相談への対応では対象者の表情や何を相談したいのかアンテナを立てて観察しながら応対しており相手が本当に相談したいことを相談できるように配慮していた。この点については病院で行われている看護と同様であると感じた。
・看護業務が多忙であること、それを淡々と行う看護師の姿に圧倒された。患者の数だけ看護提供の仕方があり、その人らしい生き方ができるように臨機応変に援助を行う看護師は光輝いており憧れを抱いた。



～まとめ～

　実習開始前は、看護を学び始めたばかりの１年生を様々な看護活動の場で実習させることに不安があったが、どの実習場も１年生を温かく迎え入れて下さり、学生は教員が予想していた以上の学びを得ることができた。今後も地域の看護師の皆さまの力をお借りし、地域という大きい枠組みの中で看護を考えることができる看護師の育成を目指し取り組んでいきたい。